

# 令和3年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月4日実施)	総合評価（3月17日実施）		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
1	教育課程 学習指導	<p>① 課題を発見し、自ら主体的に学ぶ意欲を養い、思考力、判断力、表現力を育む。</p> <p>② 学校行事や生徒会活動を充実させ、生徒の主体性の伸長を図る。</p>	<p>① 次期学習指導要領を見据え、組織的な授業改善を深化させ、マネジメント力を高めるとともに、プログラミング的思考やSDGsの視点を取り入れた授業実践を行い、生徒の論理的思考力・課題解決力を高める。</p> <p>② 学校行事や生徒会・委員会活動を通して、生徒主体の活動を活性化し、生徒一人ひとりのマネジメント力を育成し、生徒一人ひとりが活躍できる学校づくりと信頼される人材育成を推進する。</p>	<p>① プログラム的思考を取り入れた授業を意識した授業の組み立てを行い、もの見方・考え方を働かせる授業を行う。</p> <p>② ねらいを明確にした思考させる事例をベースに組織的な授業改善を行う。</p> <p>③ 生徒一人ひとりの役割分担等を明確にし、定期的に委員会を開催し、活性化を図る。</p> <p>④ 学校行事等、生徒主体の企画立案や運営等を促し、一体感のある生徒主体の学校行事を目指す。</p>	<p>① 生徒による授業評価で各項目の評価が3・4を合わせて85%以上となったか。</p> <p>② 年間を通して、計画的な委員会活動を年間3回以上行うことができたか。</p> <p>③ 学校行事への参加率・満足度が85%以上であったか。</p>	<p>① 生徒による授業評価で各項目の評価が3・4を合わせて85%以上となった。</p> <p>② 行事は今後も実施予定であり、年度末に総括する。</p> <p>③ 年度末に方策等を考慮する。</p>	<p>① 「他者の考えを知ることで、新たな考え方を広げ深めることができた」の項目が85.1%と一番低かったため、教科ごとの分析を参考に改善方法を明確化し実践する。</p> <p>② 生徒に身に付けさせたい力を明確にした授業づくりを行っていく。</p> <p>③ 数値による目標値に対する評価がなされており、とても良いと思います。</p> <p>④ 思考させる授業づくりが全教科実施されたことは素晴らしいと思います。</p>	<p>① 生徒による授業評価、3・4で85%以上となったことは喜ばしい事であるが、1年間目標の生徒の論理的思考力、課題解決力を高めることにつながったかどうか、示していただけるとありがたい。</p> <p>② 校内で研究授業や研修を開催しているとのこと、その時々に応じた質の高い授業を今後も期待します。</p> <p>③ 数値による目標値に対する評価がなされており、とても良いと思います。</p> <p>④ 思考させる授業づくりが全教科実施されたことは素晴らしいと思います。</p>	<p>① 第2回生徒による授業評価「授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた」が90.3%となった。</p> <p>② 生徒に身に付けさせたい思考力は、5教科で明確化することができた。4教科では意見が多岐にわたったため、生徒に身に付けさせたい思考力を再度明確化し、統一することが課題である。</p> <p>③ 行事縮小のなか、感染拡大防止に努め、最大の活動ができた。参加率は90%を超えている。</p> <p>④ 生徒による、より積極的な立案・運営をめざしたい。</p>	<p>① プログラム的思考である「順序づけ見通す、場合分けをする、繰り返す」を踏まえたうえで教科ごとの生徒に身に付けたい力を明確にし、授業づくり・授業改善に取り組む体制を整えていく。</p> <p>② 今後の状況にもよるが、できる限り委員会や行事を実施し、生徒一人ひとりの記憶に残るような学校行事が運営できるよう、マネジメント力を育成する機会を提供する。</p>
2	生徒指導 ・ 支援	<p>① 頭髪・服装指導や遅刻指導及び交通安全指導を重点項目として再登校指導を行う。</p> <p>② 生徒理解に努め、個に応じた支援を行う。</p>	<p>① 遅刻の回数により段階的指導を行う。</p> <p>② 頭髪・服装指導について再登校指導を行う。</p> <p>③ 登下校時の交通安全指導や巡回指導を行う。</p>	<p>① 遅刻の回数により段階的指導を行う。</p> <p>② 頭髪・服装指導について再登校指導を行う。</p> <p>③ 登下校時の交通安全指導や巡回指導を行う。</p>	<p>① 遅刻指導数は例年より減少したか。</p> <p>② 頭髪・服装指導件数は例年より減少したか。</p> <p>③ 交通事故数・苦情の件数は例年より減少したか。</p>	<p>① 遅刻、頭髪、服装に係る指導件数は減少している。</p> <p>② 数件の交通事故報告や、登下校時の通学マナーに対する苦情があった。</p> <p>③ 情報共有を図り、生徒への支援に努めた。</p>	<p>① さらなる定着を目指して、引き続き授業時の巡回等、指導を継続していく。</p> <p>② 継続的に、交通マナー・ルールの指導を実施する。</p> <p>③ 状況に応じて学年を越えた支援ができるようにする。</p> <p>④ 今後も挨拶の励行に努める。</p>	<p>① 遅刻・頭髪・服装だけでは見えてこない要指導対象者がいかに注視してもらいたい。</p> <p>② 指導件数の減少も喜ばしい事であるが、可能であるなら、その減少数を数値で表した方が、説得力があると思います。挨拶をする生徒が目に見えて増えてきていることは、ご指導の賜だと評価できます。</p> <p>③ 登下校時の通学マナーは保護者も巻き込んだ対応策を検討してよいのでは。</p> <p>④ 挨拶に関しては教職員の皆さんも来校者の方に率先してご挨拶頂けるといいです。</p>	<p>① R2との比較 頭髪・服装指導による再登校数 207件 ⇒ 174件 遅刻回数による指導回数 124件 ⇒ 141件 苦情件数 50件 ⇒ 39件 SNSを通し問題化するケースがある。保護者を含め SNS の使い方について考えたい。</p> <p>② 生徒情報交換会や日頃の職員間での情報共有を密にし、関係機関を活用しながら支援に努めた。</p> <p>③ 個別に支援が必要なケースに関してケース会議を開き、関係職員で対応の仕方を共有できた。</p>	<p>① 引き続き、関係機関と連携しながら、外面的に見えてこない要支援対象の把握に努める。</p> <p>② 交通安全の啓発に取り組んでいく。</p> <p>③ 来年度、新たに健康支援グループ(仮称)を発足し、生徒の支援に努める。</p> <p>④ 登校時指導時だけでなく日ごろからのあいさつ習慣をつける。</p>
3	進路指導 ・ 支援	<p>① 高大接続改革や新型コロナウイルス感染症に伴うスケジュールや情報等を幅広く収集し、効果的な情報共有や情報発信を行い、適切な進路選択を支援する。</p>	<p>① 進路希望に応じたスケジュールを提示し、計画的な取り組みを促す。</p> <p>② 新しい情報を主体的に得る指導を行う。</p>	<p>① 進路未定者は卒業数に対し1割以下であったか。</p> <p>② オンラインツールを活用し、生徒だけではなく保護者にも届く情報発信を行うことができたか。</p>	<p>① 各学年では、総合的な探究の時間等を使い、オンラインを活用した進路別講演会を実施している。</p> <p>② 1・2年生では、総合的な探究の時間等を使い、オンラインを活用した進路別講演会を実施している。</p> <p>③ 入学当初の入部率や現在の活動率とも50%を上回ることはできなかった。</p> <p>④ 定期的に顧問会議を開催する中で、毎回事故防止に係る情報を共有し、一定の成果が見られた。</p>	<p>① 1・2年生では、総合的な探究の時間等を使い、オンラインを活用した進路別講演会を実施している。</p> <p>② 入学当初の入部率や現在の活動率とも50%を上回ることはできなかった。</p> <p>③ 定期的に開催する中で、毎回事故防止に係る情報を共有し、一定の成果が見られた。</p> <p>④ 今後も顧問会議を開催するとともに、事故防止に努める。</p>	<p>① 大学受験を考える生徒には、保護者も含めたバックアップを今後も丁寧に対応していただきたい。</p> <p>② コロナ禍において、制約が多い中での適切な情報提供は必要不可欠なので、今後も継続的により良い情報提供と指導をお願いします。</p> <p>③ 保護者との連絡手段をオンラインにするメリットは大きいと思いますが、なかなか閲覧数が上がらないことが課題になると想定できます。閲覧数を上げる仕組みづくりが必要だと思います。</p>	<p>① 各学年で、オンラインも併用しながら進路説明会や分科会の機会をもち、進路や奨学金の情報を多く発信することができた。その結果インターシップや外部講習会への生徒の参加を促し、一定の反響を得た。</p> <p>② ハローワークと小まめな連携を行った結果、就職希望者の内定率を高めることができた。進学希望者に対しては、一般入試での合格者の増加を見た一方、目標を高く置いたことで浪人を決めた生徒が増加した。</p>	<p>① ゲーグルクラスルームを活用した情報提供は、引き続き全学年で実施していく。</p> <p>② 高校卒業後の進路イメージを1・2年生のうちからもち、実現に向けて保護者を巻き込みながら、計画的に取り組めるような仕組みを更に工夫してゆく。</p>	

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月4日実施)	総合評価(3月17日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		② ・基礎学力をより高めながら、上級学校への意欲を高めるキャリア支援を行う。	② ・スタディアプリやスタディアプリイングリッシュを活用し、基礎学力を高める指導を行う。	② ・到達度テスト等の結果を分析し、学力向上に反映することができたか。	② ・スタディアプリやスタディアプリイングリッシュの小テストを定期的に行うとともに、到達度テスト後の振り返りを継続して行った。	② ・各教科や学年の諸活動にスタディアプリ等の活用を位置づけ、有効な活用を促す。	② ・スタディアプリを具体的にどのようにして活用していくのかという具体的な方策が示されると良いです。 ・スタディアプリについては、利用率も高く有効的な活用ができていますと伺いました。とても素晴らしいことだと思います。	② ・オンライン授業時の課題など、スタディアプリを有効活用することができたが、平時に更なる有効活用を促し、学力の定着を図りたい。	② ・学力診断テストの結果を、学習指導や進路指導に活用する。 ・グループ業務に位置づけ強化する。
4 地域等との協働	○ ・保護者、地域と連携して、信頼される学校づくりを進める。	① ・学校運営協議会の更なる活性化を図るとともに、PTAや地域とともにある学校づくりを推進する。  ② ・学校説明会、中学校への学校紹介資料の配付、ホームページ等を通して、本校の特色を幅広く発信し、魅力を紹介する。	① ・学校運営協議会によって課題や目的を共有し、改善方法を共有する。 ・地域活動を通して、地域との交流の機会を増やす。  ・PTA活動のより一層の活性化を図る。  ② ・学校案内やチラシを配付し、更なる学校説明会の充実を図る。  ・ホームページの定期的な更新を行う。	① ・課題や目的を共有し、改善することができたか。 ・地域と連携した事業に生徒が参加したか。  ・PTA活動の活性化が図れたか。  ② ・学校説明会で適切に学校の特色が伝えられたか。  ・ホームページは常に最新データに更新されていたか。	① ・2回開催し、課題や目的を共有・改善した。  ・地域との連携事業は、小学校で防犯教室を行った。 ・活動が制限される中でも、活発に活動した。  ② ・年内3回実施。700名の参加があり、動画やパワーポイントを活用し、学校の魅力を発信した。  ・関係するグループや部活動等により積極的な更新に努めた。	① ・今後も積極的な意見交換を行っていく。  ・今後の状況に応じて活動する。  ・今後も活発に活動を展開していく。  ② ・今後も魅力発信に努める。  ・引き続き全職員がホームページの更新ができるよう、操作方法等の普及に努める。	① ・地域やPTAとの連携は、今後とも継続して進めていただければと思います。  ・制約の多い中で2回開催し、課題や目的を共有・改善できたことは評価に値します。  ② ・学校のホームページをもっと活用し、外部や通学している生徒の保護者に向けての情報発信ツールとして使用できればいいと思います。 ・学校説明会を年内3回実施し、700名の参加があり、学校のPR等ができたことも評価に値いたします。 ・Twitterやホームページがあっても、魅力的な内容発信されていないと、使用率アップにはならないかもしれません。	① ・書面による開催も含め、多くの意見をいただいた。  ・地域との連携事業は小学校で防犯教室を行った。  ・多くの役員が抽選により選ばれた方々であるが、色々と制限される中でも積極的に活動できた。 ② ・4回実施。最終的に約1000名以上の参加があった。  ・定期的にホームページの内容を更新した。ただし、ホームページ更新に携わる職員は、ごくわずかであった。	① ・有意義なご意見をいただけるよう開催方法を工夫する。 ・要請があれば、連携事業への参加を検討する。  ・全員が積極的に活動できるよう、PTA活動の魅力を発信していく。 ② ・学校紹介動画等、学校の紹介方法を、さらに改善していく。  ・学校行事だけでなく、部活動の情報も発信できるよう、CMSの操作方法の研修を重ねていく。
5 学校管理 学校運営	① ・安心して安全な教育環境を確立し、生徒一人ひとりが「気品と誇り」をもち、のびのびと学習できる環境を整備し、より良い学校づくりを推進する。  ② ・教員の働き方改革を推進するための意識改革を図り、ワークライフバランスを推進する。  ③ ・職員全体で事故防止に取り組む。  ④ ・学校図書館が学校生活の様々な場面で活用されるよう努める。	① ・職員・生徒・保護者が一体となってより良い教育環境づくりを行う。  ・実践的な防災教育を推進し防災意識を高める。  ・新型コロナウイルス感染症予防に努める。  ② ・1日単位で10日以上年休が取得できるよう、環境を整備していく。  ③ ・服装管理をはじめ入学者選抜、成績処理、調査書発行等における事故を未然に防止する。  ④ ・生徒一人一人の課題を引き出し、興味・関心に寄り添い図書館を目指す。	① ・PTAと協力して校内環境の整備にあたる。  ・定期的な清掃活動計画を立て、校内の整理整頓を行い、生徒の環境美化の意識を高める。 ・災害発生時におけるべき行動や正しい情報収集の仕方を理解させる。  ・消毒とマスク着用を徹底する。  ② ・業務の精選を行うとともに、組織的な業務改善を促し働きやすい職場環境を整える。  ③ ・定期的に事故防止会議を実施し、啓発資料等を効果的に活用しながら職員の当事者意識を高める。  ④ ・本校にふさわしい図書館運営を行い、積極的に情報を発信していく。  ・地域、外部との連携を進める。	① ・PTAや保健委員会、厚生委員会と連携し、校内整備を進めることができたか。 ・清掃活動を充実させ、快適な学習環境の維持に努めることができたか。 ・災害時における地域との連携について協議は進んだか。  ・予防意識を高めることができたか。  ② ・業務を精選し、1日単位での年休取得を全職員意識し、15日以上年休取得ができたか。  ③ ・定期的な事故防止会議を年間通して実施することができたか。  ④ ・図書館の認知度や利用頻度は上がったか。  ・広報活動を継続的に行ったか。  ・地域、外部との連携を進めることができたか。	① ・校内整備を実施することはできなかった。  ・新型コロナウイルス感染症の状況を見据えつつ、少しずつ清掃活動を再開することができた。 ・茅ヶ崎市の防災対策課と協議をし、非難物資や運営方法について確認を行った。 ・マスクの着用について継続的に指導し、消毒も定期的実施することができている。  ② ・現在のところ、1日単位で10日以上年休取得者は4名にとどまっている。  ③ ・定期的に事故防止会議を実施した。  ④ ・今年度貸出率は10%程度で上がっているとは言えない。 ・twitterやホームページ等で図書館からの発信を継続的にしている。  ・まちづくりスポット茅ヶ崎(NPO)への展示の協力をし、定期的な連絡を取っている。	① ・校内整備ができるよう、準備はしておく。  ・清掃活動の全面的な再開について協議していく。  ・災害物資の拡充と整理を行なっていく。  ・健康面に配慮しつつ、充実した学校生活を運営する方法を協議していく。  ② ・年休取得に向け、業務を改善し、取得しやすい環境を整える。  ③ ・他校の事例を我がこととして考え、引き続き事故防止の徹底に努める。  ④ ・学校生活の各場面で折に触れて利用の機会を発信していく。 ・外部と内部への発信方法を使い分け、より有用な情報を発信していくよう心掛ける。 ・図書委員会を活用し、生徒と地域との連携を深めていけるような機会を持つ。	① ・校内環境整備は行われなかった。  ・清掃活動を再開することができた。  ・備蓄食料の整理と災害備品の拡充を行なうことができた。  ・黙食やマスク着用についてHRや掲示物を通して指導し、感染症対策に努めた。  ② ・1日単位で10日以上年休取得は難しい状況であったが、在宅勤務の活用により、学校外で仕事をする人は増えた。  ③ ・1年を通して事故の発生事例はなかった。  ④ ・分散登校の時期などもあり、貸出冊数自体は減少した。  ・twitterやホームページ等で図書館からの発信を継続的に行うことができた。  ・まちづくりスポット茅ヶ崎(NPO)への展示の協力をし、定期的な連絡を取って情報交換をすることができた。	① ・校内環境整備の準備を進めておく。  ・今後も感染症に配慮しながら、生徒の美化意識育成に努める。  ・備蓄食料のローリングストックを組織として行なうとともに、防災倉庫の整理をする。 ・今後も状況により、引き続き感染予防に努める。  ② ・年休を取得しやすい環境づくりに努める。  ③ ・引き続き事故防止に努める。  ④ ・学校生活の充実に図書館が有用であることを、様々な場面で示していきたい。 ・twitterによる発信とは別に、Classroomによる生徒向けに特化した発信も心掛けていきたい。 ・感染状況が落ち着いたら、図書委員と地域の方々コラボできるような企画を働きかけていきたい。	